

# ビックキャブKIT（ケーヒンPE24）取扱説明書

|      |                       |
|------|-----------------------|
| 製品番号 | 03-05-0225（キャブレターキット） |
|      | 03-02-0001（マニホールドセット） |

|      |                 |                          |
|------|-----------------|--------------------------|
| 適応車種 | Ape 50          | (AC16-1000001 ~ 1499999) |
|      | Ape100          | (HC07-1000001 ~ )        |
|      | Ape100 タイプD     | (HC13-1000001 ~ )        |
|      | XR 50 モタード      | (AD14-1000001 ~ )        |
|      | XR100 モタード      | (HD13-1000001 ~ )        |
|      | XR 100R         | (HE03-2100001 ~ )        |
|      | CRF100F         | (HE03-2400001 ~ )        |
| 適応条件 | 弊社製スーパーヘッド取り付け車 |                          |

この度は、弊社製品をお買い上げ頂きまして有り難うございます。  
 使用の際には下記事項を遵守頂きますようお願い致します。取り付け前には、必ずキット内容をお確かめ下さい。  
 万一お気付きの点がございましたら、お買い上げ頂いた販売店にご相談下さい。

◎イラスト、写真などの記載内容が本パーツと異なる場合があります。予めご了承下さい。

## ☆ご使用前に必ずお読み下さい☆

- ◎取扱説明書に書かれている指示を無視した使用により事故や損害が発生した場合、弊社は賠償の責を一切負いかねます。
- ◎当製品を取り付け使用し、当製品以外の部品に不具合が発生しても当製品以外の部品の保証は、どのような事柄でも一切負いかねます。
- ◎当製品を加工等された場合は、保証の対象にはなりません。
- ◎他社製品との組み合わせのお問い合わせはご遠慮下さい。
- ◎当製品は、上記適応車種の車両専用です。他の車両には取り付け出来ませんのでご注意ください。
- ◎ドラムブレーキ車両の場合、別途ブレーキレバー & ワイヤーセット（06-08-3001）が必要となります。
- ◎当製品は、別売りのマッドガードとの併用をお勧めします。
- ◎当製品は、弊社製スーパーヘッド及び弊社製 PE24 キャブレターキット装着車両専用です。  
 ノーマルヘッド車両には使用出来ませんのでご注意ください。
- ◎エンジン内部に水分が入り込んだ場合、エンジン不調の原因となりますので、雨天中の走行は出来るだけ避けて下さい。  
 又、洗車時等激しく水の掛かる時は、エアフィルターからエンジン内部に水が侵入しないように十分ご注意ください。
- ◎キャブレターは、天候・湿度・気温・標高や気圧等、自然現象及び車体差、キャブレターの個体差等によりセッティングを変更する必要があります。  
 個々のエンジン、条件に合ったセッティングを行って下さい。  
 尚、キャブレターは次ページの状態で出荷しております。
- ◎当製品はクローズド競技用として開発した製品ですので、一般公道では使用しないで下さい。一般公道で使用する場合は、道路運送車両法の保安基準を充たし、遵法運転を心掛けて下さい。（道路運送車両法の保安基準を充たさない車両で公道を走行すると、違反となり運転者が罰せられます。）
- ◎ Ape100: フレーム番号 HC07-1600001 ~ 及び Ape タイプD: フレーム番号 HC13-1000001 ~ の車両は、ノーマルマフラーとキャブレターが干渉します。フルエキゾーストマフラーの交換している車両が前提となります。
- ◎ Ape100: フレーム番号 HC07-1600001 ~ 及び Ape タイプD: フレーム番号 HC13-1000001 ~ の車両で、バッテリーを使用する場合、別途バッテリーボックス、マッドガードが必要となります。又、一般公道で使用される場合、フェンダーレスキットが必要となり、ノーマルフェンダーは取り付け出来ません。ご注意ください。（道路運送車両法の保安基準を充たして下さい。）

**注意** この表示を無視した取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容及び物的損害が想定される内容を示しています。

- 作業等を行う際は、必ず冷間時（エンジン及びマフラーが冷えている時）に行ってください。（火傷の原因となります。）
- 作業を行う際は、その作業に適した工具を用意して行って下さい。（部品の破損、ケガの原因となります。）
- 規定トルクは、必ずトルクレンチを使用し、確実に作業を行ってください。（ボルト及びナットの破損、脱落の原因となります。）
- 製品及びフレームには、エッジや突起がある場合があります。作業時は、手を保護して作業を行ってください。（ケガの原因となります。）
- 走行前は、必ず各部を点検し、ネジ部等の緩みがないかを確認し緩みが有れば規定トルクで確実に増し締めを行ってください。（部品の脱落の原因となります。）

**警告** この表示を無視した取り扱いをすると人が死亡、重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

- 走行中、異常が発生した場合は、直ちに車両を安全な場所に停止させ、走行を中止して下さい。（事故につながる恐れがあります。）
- 作業を行う際は、水平な場所で車両を安定させ安全に作業を行ってください。（作業中に車両が倒れてケガをする恐れがあります。）
- 点検、整備は、取扱説明書又は、サービスマニュアル等の点検方法、要領を守り、正しく行って下さい。（不適当な点検整備は、事故につながる恐れがあります。）
- 点検、整備等を行った際、損傷部品が見つければ、その部品を再使用する事は避け損傷部品の交換を行ってください。（事故につながる恐れがあります。）
- ガソリンは、非常に引火しやすい為、一切の火気を避け燃えやすい物が周りに無い事を確認して下さい。又、気化したガソリンの滞留は、爆発等の危険性がある為、通気の良い場所で作業を行ってください。
- 製品梱包のビニール袋は、幼児の手の届かない所に保管するか、廃棄処分して下さい。（幼児がかぶったりすると、窒息の恐れがあります。）

- ◎性能アップ、デザイン変更、コストアップ等で製品及び価格は予告無く変更されます。予めご了承下さい。
- ◎クレームについては、材料及び加工に欠陥があると認められた製品に対してのみ、お買い上げ後1ヶ月以内を限度として、修理又は交換させて頂きます。  
 但し、正しい取り付けや、使用方法など守られていない場合は、この限りではありません。修理又は交換等にかかる一切の費用は対象となりません。  
 なお、レース等でご使用の場合はいかなる場合もクレームは一切お受け致しません。予めご了承下さい。
- ◎この取扱説明書は、当製品を破棄されるまで保管下さいます様お願い致します。



| 番号  | 部品名                      | 数量 | リペア品番              |
|-----|--------------------------|----|--------------------|
| 1   | コネクティングチューブ              | 1  | 00-03-0415         |
| 2   | エアフィルター                  | 1  | 00-03-0391         |
| 3   | エアフィルターステー               | 1  | 00-00-1513         |
| 4   | フランジボルト 6x16             | 1  | 00-00-0134 (4ヶ入り)  |
| 5   | フランジUナット 6mm             | 1  | 00-00-0091 (6ヶ入り)  |
| 6   | クランプバンド (40-60mm)        | 1  | 00-00-0038         |
| 7   | キャブレター ASSY. (PE24)      | 1  | 03-03-0074         |
| 8   | メインジェット #120             | 1  | 00-03-0098         |
| 9   | スロージェット #40              | 1  | 00-03-0170         |
| ※10 | キャブレターインシュレーター           | 1  | 00-03-0209         |
| ※11 | クランプバンド (30-45mm)        | 1  | 00-00-0050         |
| ※12 | ソケットキャップスクリュー 6x15 (SUS) | 4  | 00-00-0205 (4ヶ入り)  |
| 13  | Lジョイント 10mm              | 1  | 00-03-0207         |
| ※14 | インレットパイプ                 | 1  | 00-00-1475         |
| ※15 | カラー                      | 1  | 00-00-1460         |
| ※16 | Oリング                     | 1  | 00-03-0206         |
| 17  | フューエルチューブ 200mm          | 1  | 00-03-0203 (500mm) |
| 18  | スロットル COMP.              | 1  | _____              |
| 19  | 右グリップラバー                 | 1  | _____              |
| 20  | 左グリップラバー                 | 1  | 09-02-0002         |
| 21  | スロットルケーブル COMP. 710mm    | 1  | 09-02-0071         |
| 22  | 6角棒レンチ 3mm               | 1  | _____              |
| 23  | 6角棒レンチ 5mm               | 1  | _____              |

出荷時キャブレター状態

|                 |       |
|-----------------|-------|
| メインジェット         | #108  |
| スロージェット         | #48   |
| ジェットニードル        | 36S   |
| クリップポジション       | 3段目   |
| スロットルバルブカッターウェイ | #3.0  |
| エアスクリューオープニング   | 1-1/2 |

※印は、03-02-0001 マニホールドセットを示しています。

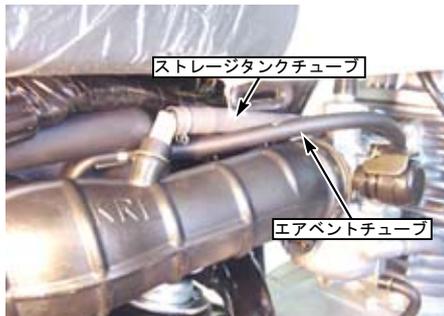
∴リペアパーツは必ずリペア品番にてご発注下さい。

品番発注でない場合、受注出来ない場合があります。予めご了承下さい。

尚、単品出荷出来ない部品もありますので、その場合はセット品番にてご注文下さいませ  
お願い致します。

### 純正キャブレターの取り外し

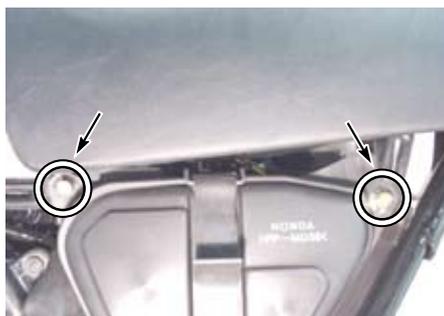
- 2本のボルトを取り外し、シートを後方に引いて外します。
- 右サイドカバーのボルトを取り外し、ボス2ヶ所をフレームから外し、右サイドカバーを外します。
- 左サイドカバーのボス3ヶ所をフレームから外し、左サイドカバーを外します。
- ストレージタンクホースとキャブレターエアセントチューブをエアクリナーケース側から外します。
- ※ストレージタンクホースはブリーザーチューブジョイントごと外して下さい。



- コネクティングチューブバンドスクリューを緩めます。



- ノーマルエアクリナーケースを止めているケースマウントボルトを左側から2本、右側から1本取り外します。



- Ape100:HC07-1600001 ~及び HC13-1000001 ~の車両で、バッテリーをご使用される場合、バッテリーボックス及び各キットの取り付け要領に従い、バッテリーを取り付けます。

- コネクティングチューブをキャブレターから外し、エアクリナーケースを取り外します。
- コネクティングチューブに接着剤を塗布し、エアフィルターとステーの穴位置を合わせ、コネクティングチューブを取り付けます。
- ※接着面は汚れ、油脂分を取り除き、十分乾燥させた後、ホンダボンドAまたは相当品を薄く塗布し、接着面が乾かないうちにエアフィルターを取り付けます。
- ※接着剤に添付されている仕様説明書に従って使用して下さい。
- ※エアフィルター取り付け後、接着剤が固まるまで最低2時間は放置して下さい。



- フューエルコックを閉じます。キャブレターのドレンコックを開きフロートチャンバーからガソリンを受け皿に抜き取ります。
- フューエルチューブをキャブレターから外します。キャブレタートップを外し、スロットルバルブをキャブレターから取り外します。スロットルバルブとスロットルケーブルを分離し、トップカバーを抜き取ります。



- インレットパイプ固定ボルトを取り外し、インレットパイプを取り外します。
- ※インテークポート内に異物等が入らないよう注意して下さい。



- スロットルハウジングのパンスクリューを車両から外します。

### キャブレターの取り付け

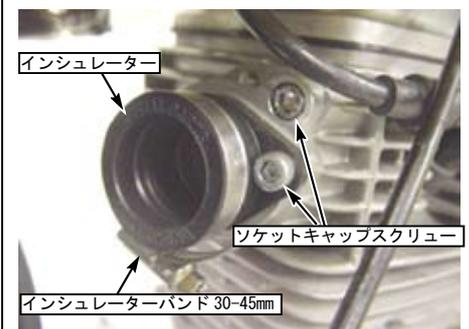
- PE24キャブレターのフロートチャンバーを外し、メインジェット及びブロージェットをキット付属の物に交換し、フロートチャンバーを元通りに取り付けます。
- キット内のインレットパイプ裏側の溝にキット内のOリングを取り付け、シリンダーヘッドにソケットキャップスクリーを用いて取り付け、規定トルクまで締め付けます。

⚠注意：必ず規定トルクを守る事。  
ソケットキャップスクリー  
トルク：10N・m (1.0kgf・m)

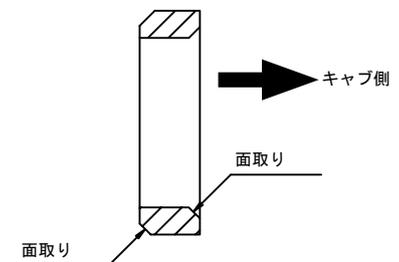


- 取り付けしたインレットパイプにキット内のインシュレーターをソケットキャップスクリーを用いて取り付け規定トルクまで締め付けます。

⚠注意：必ず規定トルクを守る事。  
ソケットキャップスクリー  
トルク：10N・m (1.0kgf・m)



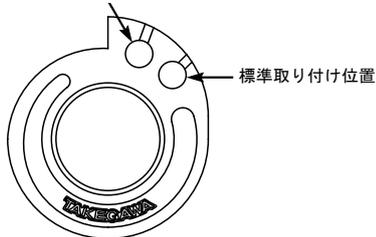
- キャブレターインシュレーターにインシュレーターバンド (30-45mm) を取り付けます。
- キャブレターの口にキット内のカラーを図を参考に取り付けます。
- ※コネクチューブを取り付けない場合は、必要ありません。



■取り付け要領 ※特に記載の無い細部の取り付け方法や規定トルクにつきましては、純正サービスマニュアルを参照して下さい。

- キット内のスロットルハウジングのスクリューを取り外し、ハウジングを分割します。
  - ハンドルのスロットルパイプ摺動部にグリスを塗布し、スロットルパイプを取り付けます。
  - ローワーハウジングにスロットルケーブルを仮締めし、ケーブルエンドをスロットルパイプに接続します。
- ※ケーブルエンド部分とパイプのケーブル巻き取り部にグリスを塗布して下さい。

約9mm突き出し量が多くなります



- アッパーハウジングを取り付けスクリューを締め付けます。

⚠注意：必ず規定トルクを守る事。  
スクリュー  
トルク：5N・m (0.5kgf・m)

- ハンドルとスロットルパイプのグリップ取り付け面と左右グリップラバー内面の汚れや油脂分を取り除きます。

ハンドルとスロットルパイプにホンダ純正ホンダボンドA又はセメダインF540を薄く塗布し、接着面が乾かないうちにグリップを回しながら取り付けます。

- キットのキャブレターのトップカバーを外して、スプリング、スロットルバルブを抜き取ります。スロットルケーブルのインナーケーブルをキャブレターのトップカバーから通し、さらにスプリングを通して、スプリングを締めながらスロットルバルブに取り付けます。スロットルバルブの切り欠き部をスロットルストップスクリューに合わせてキャレターに取り付けます。



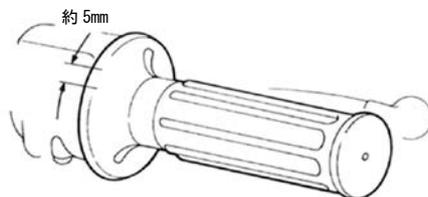
- キャブレターをインシュレーターに差し込み、クランプバンドを締め付けます。



- スロットルケーブルロックナットを締め付けます。※必要以上に締め付けた場合、ハウジングが破損する場合がありますのでご注意ください。

⚠注意：必ず規定トルクを守る事。  
スロットルケーブルロックナット  
トルク：8N・m (0.8kgf・m)

- スロットルグリップ部で5mm程度の遊びが出来るようにスロットルケーブルのアジャスターを調整します。



- スロットルを数回スナップさせ引っぱりやスロットルバルブの全開状態を確認します。ステアリングを左右いっぱい切った状態でもスロットルに遊びがある事を確認して下さい。
- フューエルチューブを差し込み、チューブクリップで止めます。

### エアフィルター及びコネクチューブの取り付け

- コネクティングチューブにクランプバンド(40-60mm)を通し、キャブレターに取り付けクランプバンドを締め付けます。



- フランジボルト6x16、フランジナットでエアフィルターステーをフレーム右側のエアクリーナーケース取り付け穴に固定します。

⚠注意：必ず規定トルクを守る事。  
フランジボルト  
トルク：12N・m (1.2kgf・m)



- コネクティングチューブにストレージタンクホースを取り付け、チューブクリップを取り付けます。

※エアメントチューブは走行に支障の無いようにまとめて下さい。

※XR100R、CRF100Fに使用される場合は、キット同梱のLジョイントを用いて取り付けして下さい。

- 左右サイドカバー、シートを取り付けます。フューエルコックを開き各部からのガソリン漏れの有無を確認します。

(コックを開いたまま長時間放置しないで下さい。)

- チョークレバーを引きエンジンを始動させます。チョークレバーを徐々に戻し、回転がスムーズになるまで暖機運転を行いチョークレバーを完全に戻します。

エンジン暖機後アイドルリングしない場合や、アイドルリング回転数が高い場合は、スロットルストップスクリューで調整します。

- 安全な場所で十分注意し、個々の車体に合ったセッティングを行って下さい。

### ～メンテナンス要領～

キットに含まれるハイフローフィルターは、容易にメンテナンスをする事が出来ます。

エレメントが汚れた場合は、下記手順によりメンテナンスを行って下さい。

(市販のフィルタークリーナーやフィルターオイルといったケミカル類は使用しないで下さい。使用された場合、エレメントが劣化する可能性があります。)

- 車両より取り外し、エレメント表面に付いた大きな塵等を取り除きます。

- 市販の中性洗剤を薄めた洗浄液を作り、フィルターを洗浄液に浸し、エレメントを洗浄します。

(この時エレメントを硬いブラシでこすったり、強くエレメントを揉んだりしないで下さい。エレメントが痛みます。)

- 水道水等の流水で、エレメントの内側から水を注ぎ込み、エレメントの洗浄液をよくすすぎます。

- 洗浄液をすすぎ終わったら、エレメントを乾かします。

ウエス等でエレメントの水気を押さえるように拭き取り、風通しの良い日陰で自然乾燥させて下さい。

もし圧縮空気を用いる場合は、内側から弱い圧力で水気を吹き飛ばして下さい。

# キャブレターセッティング要領

- ・キャブレターがエンジンに適合していない時のエンジンに現れる不調の原因は、混合気が濃すぎるか薄すぎるかの2つの原因に絞られます。
- ・エンジンに現れる不調の現象は次の通りです。

| 混合気が濃すぎる時   | 混合気が薄すぎる時  |
|---|--|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・爆発音が重い感じで断続する。</li> <li>・チョークを作動すると、より調子が悪くなる。</li> <li>・エンジンが暖機すると調子が悪くなる。</li> <li>・クリーナーを外すと調子が良くなる。</li> <li>・排気ガスが濃い。(黒い)</li> <li>・プラグが黒くくすぶる。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・エンジンがオーバーヒート気味になる。</li> <li>・チョークを作動すると、調子が良くなる。</li> <li>・加速が悪い。(息付きをおこす)</li> <li>・回転変動があり、力がない。</li> <li>・プラグが白く焼ける。</li> </ul> |

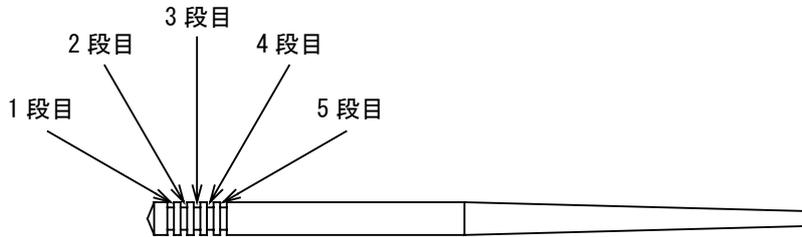
※キャブレターのセッティングは暖機後に行い、走行確認を行って下さい。又、プラグは適正な熱価の物をご使用下さい。  
 ※エンジン回転後、スロットル開度等により、どの範囲でエンジンが不調になるかを考慮し、下記の要領でセッティングして下さい。

## ○ジェットニードル (スロットル開度 1/4-3/4)

加速時、スロットルに回転がついて来るか、来ないか

- ・息付きをする場合、濃くして下さい。
- ・回転の上がり重く、排気ガスが黒い場合は薄くして下さい。

この開度での混合比は、Eリングを入れる溝の段数で調整出来ます。Eリング位置が1段目から5段目に下がるにつれ混合気は濃くなります。



## ○メインジェット (スロットル開度 3/4-4/4)

- ・この開度での混合比は、ジェットの番数を変えることにより調整出来ます。番数を上げると混合気が濃くなります。
- ・仕様等を考慮の上、最高回転数 (最高速度) の得られる物を選んで下さい。

## ○スロージェット / パイロットジェット (調整前にまずエアスクリューを調整して下さい。)

- ・エアスクリューの戻し量 3.0 回転以上の場合、スロージェット / パイロットジェットを小さくして下さい。
- ・エアスクリューが全閉になる場合は、スロージェット / パイロットジェットを大きくして下さい。  
パイロットジェットはアイドルリングから低速運転時に、エンジン回転数がスムーズに立ち上がるか否かを確認します。
- ・回転上昇に谷が出来る場合、スロージェット / パイロットジェットが小さ過ぎます。(アイドル回転時)
- ・排気が濃く排気音が重い場合、スロージェット / パイロットジェットが大き過ぎます。(アイドル回転時)
- ・スロージェット / パイロットジェット交換時には、エアスクリューの再調整が必要です。

## ○エアスクリュー

エアスクリューはスロー系の空気流量を調整します。(アイドルリング時)

- ・エアスクリューを右に回す→混合気が濃くなる。
- ・エアスクリューを左に回す→混合気が薄くなる。

標準戻し回転数 (1.5 回転) に合わせ、左右に 1/4-1/2 回転ずつ回しエンジン回転数が最も高くなる位置に調整します。

アイドルストップスクリューで安定したアイドル回転まで下げ、もう一度エアスクリューで最も回転数が高くなる位置に調整します。

## ●気圧、気温、湿度によるセッティングへの影響

- ・高地等で気圧が下がると空気密度が下がり、キャブレターへ吸入される空気量が減少します。この為、低地で調整されたキャブレターは混合気が濃くなります。
- ・非常に気温の低い天候下では、空気密度が上がる為、キャブレターの混合気は薄くなります。
- ・雨天の場合は湿度が上がる為、空気密度が下がりキャブレターの混合気は濃くなります。